

## 彙 報

## ●坂口評議員訃報

本會評議員京都帝國大學教授正四位勳二等文學博士坂口昂君一月十六日より輕微なる感冒に罹られ醫師の注意により自宅に療養せられしが病勢遂日増進し十九日夕刻已に急性肺炎の兆あり、二十一日大學醫院第二病舎に入院されしが針石の效なく二十八日午前七時四十五分溘焉として手足を啓かれたり、享年五十七歳。哀悼焉んぞ堪へむ。博士は久しく本會評議員に重任せられ史學興隆の爲將た本會の發達の爲終始努力せられしは會員諸氏の夙に熟知せらるゝ所、殊に昨昭和二年十一月よりは庶務委員として本會の講演會計事務を擔任せられしが忽ち道山に歸せられ訃を聞く者皆夢かこばかり思へり、二十九日午後東山花山の火化場にて茶毘密葬に附し、同學の文學部長小西博士を葬儀委員長として三浦、桑原、矢野、羽田、石橋、榎、西田(直二郎氏)諸教授植村助教授等専ら

胥に謀り三十一日午後一時より文學部陳列館にて告別式を舉行、會葬者亡慮一千二百名、本會よりも靈前に花環を供へたり、天朝博士生前の勳功を嘉賞しその卒去を惜み給ふや特旨を以て位一級追陞せられて從三位に叙し又勅使を遣して賻を齎らし弔はしめ給へり、茲に文莊院輝映甲陰居士歸幽の大梗を叙しその卒去を悼む。

## ●京都帝國大學國史專攻學生關東

## 地方研究旅行(中)

十月三十一日(月)内閣文庫(既掲)―九條公爵家―宮内省圖書寮―維新史料編纂事務局

正午に近く内閣文庫を辭して九條公爵家に向つた。同家には近年初て學界に紹介された貴重史料が多い。先づ古寫延喜式第二十六卷、弘仁格式上下二巻を見る。後者下巻の奥書には曆應二年二月内大臣鷹匠重衡の本を以て校合したこが見える。忠通自筆の正月二日附の奏狀、良經自筆正治元年六月十一日弟興福寺良圓宛の書狀等大家の筆跡にも飽かず見入つた。次に元久元年四月二十三日兼實が其女宜秋門院に宛てた自筆の處分狀案文は、最後に攝政念佛沙彌であるのも興味深く、抑女院御萬歲之

後、可讓賜順孫道家之由、所申置也、家習如此之家領、雖委附女子、代々繼家之人、所相傳來也云々」にて其家例を掲げてゐる。此他に元久元年八月二十二日道家に宛てたもの、嘉祿三年五月十六日皇嘉門院に宛てた光明院領に關するもの等の一族子孫に所領相傳せしめた時のものもあつた。尙ほ道家告文、道房公記、尙通公記なご何れも自筆に係り、就中尙實公記の如きは百四冊の大部のものである。殊に意外の眼幅を申すべきは慈眼院(政基)旅引付である。全五冊、文龜元年三月より同四年十月に互つて居り、前關白政基自身が彼の家領和泉國日根野莊へ年貢催促に行つた時の日記で、如何に當時貴族の經濟狀態が逼迫して居つたかを示す好資料である。政基が淹留三年の間、地方民は風流念佛や猿樂なごを催して慰藉に力めた。最初は田舎の土民の所業を賤しめてゐたが、實際を見るに風流有職の輩も劣らない程に凝つたものであつたに感歎の筆を留めてゐる。此頃和泉には上下二守護があつて下守護所は大津に上守護所は堺にあつた。堺はかく政治上の中心であつたに共ニ商賈軒を並べる殷盛は

近隣比なく、文龜三年堺南莊の火災に六百十字を焼いたとなごが見える。同時に披見した慈眼院殿(尙經)御記に依るに義植義榮の抗爭の折、土一揆が禁裏を侵し、神器を奪はんごするにの浮説があつたが、無事にて終つたものと、又明應三年の京都の大火は四條東洞院より出て類焼三十餘町に及び壹萬戸四十藏を烏有に歸したご云ふとなごが見える。其他雜筆も尙經の覺書で、日蓮宗の爲に斡旋した事實が記されてゐる。それらについて淺野文學士の説明を開き午後二時同家を辭して宮内省圖書寮に赴く。

圖書寮では芝編輯課長の事業の沿革及び梗概に關する説明を聴き、終つて一行の爲めに陳列された圖書を見る。金蘭方集卷一、八、十二、十六、二十の五卷は第一卷の初に貞觀十戊子年九月一日臣岑嗣欽序にある如く菅原岑嗣等の編纂に係る。古雅な軸、朱紐、古色の紙一面に捺された典藥寮印等から貞觀代の原本なることも容易に看取される。紙背に大日經秘密曼荼羅に關する文書を有する春記八卷、具注曆十二軸になれる山科教言自筆日記、鹿持雅澄の萬葉集古義總考、萬葉集名處考等何れも原本

であるのは一入興味を惹いた。金澤文庫本群書治要九冊其卷一の跋に建長七年八月十四日前參河守清原教隆ごあつて、此書は潔齋の時にあらざれば披見その恐ある由誌される。卷十七の跋には越州刺史平先年後藤台州爲大番在洛之日予依合純所書寫下ごあり、金澤貞顯が大番の士であり乍ら京都文化の移入に留意した狀が知られる。同く金澤文庫本に尙書正義、春秋左氏傳、左傳集解等があつたが何れも紅葉山文庫より傳來のものご見える。最近の發見に係る後光嚴天皇踐祚記原本は觀應三年八月十七日踐祚に關する記事である。藤波家所藏の享祿版御成敗式目及び慶長版式目抄等も注意された。荷田春滿が其弟子羽州能代村井政方に與へた古今傳授の諸本併て二十六冊は丈夫な桐函に納められ、其函裏に古今和歌集序一卷、古今和歌集二十卷、因果聞書一卷、口決見聞一卷、見聞愚記一卷、古今安秘抄一卷、三部抄口傳一卷の目録が見える。古今安秘抄に附した享保十一年十一月二十八日付の副文に、

文明の比より予が家に傳へ來る古今和歌集の傳書あり

これ東下野守平常縁の傳説にして頼常の傳抄なりしかるを足下此の傳書を得たき由懇望やまさりき予もごより足下歌の道に志ふかき事を知得ればこれよりして猶至道にも及はしめまほしくてたやすく授與し侍るもごこの傳書之人にあらずは見すべからずご云いましめ有るによりてしめて與へたくてみつかから全部書寫して授け侍る足下もまた其人にあらずば妄に見せ傳へらるべからず云々。

ごあるは古今集の家傳授受の有様が偲ばれて奥床しい。こゝから歩を移して隣接した維新史料編纂事務局を訪ねた。總裁室の壁には統計表史料採訪地方圖史料編纂系統圖等が掛けられてゐる。先づ柴田委員の同局の沿革及び目的についての説明があり、次で藤井編纂官から編纂狀況に就き説明された。終つて一行の爲に特に陳列された目録、參考書、出張報告、借入本、副本、談話筆記録、綱文、陰陽曆對照表、華族略譜、公武高官任免表等を歴覽する。稿文資料は代表的に三種陳列され、大村益次郎暗殺事件には資料を二十種十五箇所から、日田騒動に關する

ものは二十種十箇所から、大樂源太郎に關するものは又十六種も蒐集されてゐた。稿本は現今三千三百五十四冊脱稿してゐるこの事であつた。續いて大塚編纂官から歐文の資料に就いて説明があつた。陳列されたのは文久から慶應に至る迄の日本事情を載せた新聞紙類、琉球、小笠原北邊、下關、鹿児島砲撃等に關する紀行記、其他日本駐劄外交官の報告等である。ペネーオウスキ、クリューゼンステルン、ガロウインなどのメモアール、やアルセス號リヲ號乗組員の報告、グロー男エルデン卿オールコック卿等の見聞紀等が殊に注意に上つた。是等の著作や新聞紙に載せられた挿繪には又興味を唆るものが多く、イラストレイテッド、ロンドンニュース一五三一—一四三三號の中には横濱大火の狀や英佛二國人の兵舎を建築する様子が描かれ、ハーバーズ、ウイクリー一八六〇年五月二十六日の部には日本使節新見豊前守一行に對する大統領のレセプションに次で歓迎の舞踏會が催され丁髷の日本人が外國婦人と相擁して將に踊らんとする狀の寫し出されてゐるのも面白い。リラ號の報告には密畫の琉球人

の風俗繪があり、嘉永三年小笠原島を探檢した英艦の乗組員リチャド、コリンソンの報告には小笠原島の米國植民の圖がある。オルコックのキャピタル、オブ、タイクンには安政五年七月神奈川條約締結の光景を圖してあるなご何れも興味深いものであつた。次で樹下編纂官から薩英戰爭並に其繪卷物についての説明を聞き。別室に陳列された同繪卷を見た。其中、島津公簡家出品の一巻物は薩藩の砲數及守備狀態の描寫に於て優り本局の四巻物は、英の艦隊運動の刻々の變化を詳細に知る事が出来る。次に太田編纂官の説明に依つて木夢狀四巻を見る。本狀は後藤象次郎宛の書狀で、明治十八年に大江卓氏の整理したもの、慶應から明治初年にかけて東奔西走百方劃策した當年の志士の面目を躍如たらせる好資料である。更に導かれて圖書館に行く。時に午後五時二十分、暮色脚下に迫つて書架に滿載した稿本も見分け難い憾はあつたが、第一階は借入史料を、第二階は稿本を、第三階は書寫本及借入史料を納めてあつた。斯くて彼の既成史料初稿本が辛くも往年の大震災火災の厄を免かれたのは

邦家の爲にも深く慶祝すべき事である。終つて復た總裁室に歸り、パリ國民圖書館人類學標本室陳列品の複寫をいはる、文久三年十一月の我渡歐使臣一行の寫眞に興じつゝ、心盡くしの茶菓の饗應に預り一行深く感謝の意を表して宿舎に向つた。

### ● 史學 研究會

例會 一月二十八日午後一時半より樂友會館大講堂に於て開催の左の講演あり、五時半閉會せり。

遼金燕京故城考

文學士 那波 利貞君

昨年夏期對支文化事業部より派遣せられて實地につき踏査したる結果に基き、唐の幽州鎮城の位置につき從來の西洋人の研究の誤れる點を指摘し唐代の里長を考へ、其の四至を以て東北角は今の北京内城の西城粉子胡同西斜街邊、東南角は外城の南半截胡同の南端大川淀小川淀邊、西北角は阜成門外月壇の西、三里河の東邊、西南角は京綏鐵路の廣安門車站の少しく西邊に決定し、次に遼の燕京及び金の海陵王擴張前の燕京に就きて從來唱へられざる新説を發表し、右安門外東管

頭村鵝房營の鳳凰嘴の地に遺存する土城遺址を根據としてその四至を考へ、從來の學者の東北隅有燕角樓及び西城頗有涼殿とある遼史地理志の記事に對する誤解を論難して後、その西南隅は鵝房營鳳凰嘴の土城隅、西北隅は西便門外五支那里の黃亭子の地點、東南隅は永定門外西南四支那里の地點馬家舖の北方、東北隅は北京内城西長安街の西長安牌樓の西なる六部口附近の地點に擬定し得る所以を論證し、遼の燕京の皇城の位置をば外城の西城壁以西、廣安門外大街以南、魏牆角以東の地と定め、擬定地圖二葉を掲げ、遺蹟寫眞三十葉を陳列して之を考證し、海陵王擴張後の金の中都大興府城の位置は時間の關係上他日の發表に譲りたり。

大嘗宮の研究

出雲路通次郎君

大嘗宮の制度は古く貞觀儀式に見え歷朝は多少損益しつゝも略之を踏襲したが室町時代に至つて中絶二百年に及び貞享の再興を待たねばならなかつたとして其間の沿革を説き大嘗宮は要するに天皇が始めて君臨したる國土のその新穀を神と共に食する祭で悠紀主基は共に清潔を

意味し清めこいふ事がこの祭を貫く一の精神である云ひ、大菅宮の構造、調度、神饌行立の次第、器物等を説明し同様の行事が二回繰返される形のあるのは祭が夕朝に挟まれた夜を中心とする事及古代に於ける二食の風習にも淵源するであらうとした。

### ● 讀 史 會

例會 一月二十七日午後六時半より樂友會館第一號室で開催。三浦教授牧助教等來會者三十名。左記卒業論文梗概發表ありて後三浦教授より宮中御講書始の式に関する講話あり十時散會す。

近世の奢侈禁止令に就いて

天野 高信君

本篇を第一段法令發布者の傳統的精神、第二段發布に至れる幕府の狀況、第三段社會的影響に別ち禁止令が武家の傳統的精神たる勤儉保守乃至階級思想に基き、金銀採掘の衰退物價の騰貴天災地變等に刺撃されて發布を見たるこゝに、米價問題は幕府財政の中心をなすもので米食の節約を奨励したこゝに、奢侈の趨勢は將軍や當局者の影響もあるが、上方文化の東漸に依る所が多かつたこゝに。

是に對する禁令は些末的な爲に反て末梢的な奢侈に赴かしめたこゝ等を述べ。

### 歸化氏族の研究

三品 彰英君

先づ新撰姓氏錄の記載形式に三様ある事を指摘し、新羅の歸化人は其統一後、百濟の者は亡國後來朝した者多く其分布は畿内最も多く東は武藏上野等、西は美作備前備中讃岐等に多かつたが東國のものは主として政府の政策に依り西國の者は自然蕃殖に依り、其の融合は言語上氏姓の名稱が日本化し、貴族との間の結婚が行はれたこゝに、特に佛教の力に負ふ所が大であつた云々。

### 貨幣經濟の發展

小葉田 淳君

中世より近世への變遷はまた貨幣様式乃至流通の變化に於て辿られる。座間丸の發達、段錢棟錢關錢の發生、年貢の金納、准布より准米への變遷、土藏の發達の如きは外來錢貨輸入により貨幣數量の増加に依る。其の流通の特色は善惡兩錢の併用にあり、そこに撰錢の必要を生じ大内氏文明七年四月の規定幕府明應九年以後の命令を見るに至つた。斯くて善惡兩錢は相爭鬪し惡錢は次第に其

絶對價值に近かんしたが、鏝錢は商業の發展に相俟つて益々流通し、徳川初頭に至つて永樂錢が廢止された後は鏝錢獨り通貨として優越するに至つた云々。

鎌倉文化特に武家精神に就いて 藤 直幹君

平安朝中葉以後漸く歴史的認識に入り來れる武士團を支配した精神と公家文化との對立を述べ、公家の公法的關係に對する私的恩義の關係であり、上代精神の地方に貯へられたもの、擡頭であるとし、鎌倉時代に至つては先例を公家に求めず自家の偶像たる頼朝の主張に求めたことは貞永式目に依ても窺はるゝが、武家は京文化を批判し征服せむとはせず次第に京風を取入れ、兩者の混亂の内に禪宗を取入れたと其の混和の姿に言及し、最後に淨土教思想が京文化と結合したが、武士精神は更に現世的活動的な禪宗と結合したことを述べ。

例會 二月十七日六時半より開催。三浦教授中村牧兩助教授等二十一名參會。左記卒業論文梗概の發表ありて十時散會す。

徳川時代の賤民に就いて

小野 勇君

近世封建の社會階級に於ける賤民の位置、種類、職業より其の境遇の太平と共に窮迫して行つた次第を説明して武器の需用が減じて賤民特有の職業を要するこの少くなつたこと、他社會の落伍者の來り投ずるものゝ増加したること、同階級内に於ける人口の増加したること、法令が此の不幸なる境遇を脱するに大なる制限を設けたこと、刑罪の下層程峻酷なりしこと、其處に團體的反抗のあつた事等を述べ、明治初年政治的に解放されたるも社會的經濟的解放は將來の問題であること結ぶ。

石清水八幡宮の研究

六人部克己君

八幡大菩薩思想、放生會、淀川と八幡宮との關係、元寇時代に於ける國民精神の緊張の四段に別ち、八幡大菩薩思想が世界的なるものより國家的乃至國民的偉人の觀念に推移したこと、放生會は樂天的な日本固有の信仰と罪惡に對する懺悔死に對する恐怖と云ふ佛教信仰の交渉に依て生れたものなること、八幡宮の民が淀川の船頭として運上御免を得て居た事及び元寇亂の時には公武の信仰當社に集中し一般精神の緊張したことを説いた。

## 近世の内國海運

原 與 作 君

徳川時代以前の内國海運の狀況を叙べ、次に江戸大阪間の海運は元和五年菱垣廻船以前已に江戸開府頃に始めて其後の發展を述べ、戰國以後奥州方面の開拓進み米産額増したから江戸乃至大阪と奥羽との航路開けて大都會の糧道安全となり、西廻航路は日本海方面の米穀の運搬に便したる一方敦賀小濱の衰微を招けることを説き、瀬戸内海航路が戰國以來大阪が經濟中心となり、長崎貿易の發展と共に隆盛になれる次第を述べ、最後に近世内國海運の發展を以つて貨幣經濟の發展と國內統一の如き政治上經濟上の理由に基くこと結ぶ。

## 平安朝時代の商業

津川長治郎君

平安奠都と共に東西市が設定せられ市人市女と稱せられる専門の商人が現はれ、座賣は主として市廛で行はれたが、又臨時に開かれる虹市、宮市の如きがあり、地方にもそれぞれ市の立つたことは奈良時代と同様である。市にて取扱はれる商品は市人自らの生産物、また他より仕入たるものあるべく、殊に政府使用の殘品拂下を請け

て販賣したと思はれ市人が租を免ぜられたる如きは其間に生じた特典で、政府の商人保護を窺ふに足る云々。

水戸藩の攘夷論に就いて

安藤 徳器君

水戸の攘夷論を以て義公の敬神愛國の精神に出づるものとし、それが天朝最負と共に水戸學の特色であること其の關係を論じ、攘夷論は時勢に刺戟されて三期の發展をしたが、第一期は天明寛政の露人の南下に依つて喚起され立原翠軒小宮山楓軒等を以て代表される。第二期は文政八年所謂無二念打拂令出でた頃を以て劃され藤田幽谷東湖父子を以て代表される。第三期は神奈川條約以後の苦闘の時代であるとし、烈公の幽閑、志士の遭難相繼いだ中に金子健四郎の奔命艱難の事蹟に言及し、最後に水戸藩の攘夷論は國體擁護の爲の手段であつて其自體が目的で無つたこと斷ず。

## 支那學會

豫饒會 二月四日午後二時より京都帝國大學々生集會場乾室にて開催左の講演あり。



易と法言、渾天と蓋天

文學士 倉石武四郎君

右終りて記念撮影の後晚餐會開催午後八時散會せり。

## 會 報

### ● 會務擔任改選

本年一月評議員會を開きて會務擔任者を改選したる結果、編纂には羽田亨氏、西田直二郎氏、矢野仁一氏、庶務會計には植村清之助氏之に當らるゝ事となれり。

### ● 評議員就任

評議員坂口昂氏逝去せられし爲、昨年十一月改選の際に於ける次點者中村直勝氏新たに評議員に就任せらるゝ事となれり。

### ● 寄贈交換圖書

道家の思想と其の門展(東洋文庫論叢第八)

東洋文庫

Memoirs of the Research Department of the

Toyo Bunko No.1. (1926)

The Toyo Bunko

奈良縣に於ける指定史蹟第一冊

内務省地理課

史蹟名勝天然記念物二の一、三の一、二

同 保存協會

菫夢會津白虎隊(永間清治著)

菊池 仁 齡

Young Pao (通報) Vol. XXV No. 3.4

Paul Pelliot

人類學雜誌 四二の二、一二、四三の二、二

東京人類學會

會 員 動 靜

考古學雜誌 一七の二、二、十八の一、二

考 古 學 會

入 會

東京市外代々幡町幡ヶ谷本村三三一

藤井 貞文氏

考古學研究 第二輯

考古學研究會

(右紹介者 岩橋小彌太氏)

牧野安太郎氏

史學 六の四

三田史學會

大阪市天王寺區寺田町九

加藤 仁平氏

龍谷大學論叢 二七七

龍谷大學論叢社

(右紹介者 井川定慶氏)

京都市寺町今出川上ル五丁目東入

眞宗學報 三

眞宗專門學校出版部

(右紹介者 島田貞彦氏)

關谷 潔氏

國學院雜誌 三四の一、二、三

國學院大學

東京市外代々幡町幡ヶ谷一〇栗田方

吉村 七郎氏

社會學雜誌 四五、四六、四七

日本社會學會

東京市牛込區市ヶ谷富久町一二二

小笠原宣秀氏

史學雜誌 三九の一、二

史 學 會

(右紹介者 增井經夫氏)

京都市七條大宮龍谷大學史學科

中央史壇 一四の一、二

國史講習會

(右紹介者 三木一天氏)

神戶市下山手通四丁目一二七ノ九

觀想 四四、四五

觀想發行所

(右紹介者 山根徳太郎氏)

稻葉 常楠氏

民族 三の二

民族發行所

東洋學報 一六の四

東洋協會學術調查部

經濟論叢 二六の二

京大經濟學會

東京市赤坂區青山南町二ノ六五

和島 芳男氏

東京市本郷區蓬萊町六第一東洋館

中村 吉治氏

東京市外東中野一七四〇誠明學會

竹内 理三氏

東京市小石川區武島町二一鹽澤方

阿南 浩氏

東京市小石川區原町十三八ノ三

佐伯 昌夫氏

(右紹介者 原田享一氏)

東京市外原宿一九六

藤木 邦彦氏

(右紹介者 中村久四郎氏)

京都市三條室町

堀部功太郎氏

(右紹介者 三浦周行氏)

退 會

石原 次郎氏

關 信太郎氏

次田 潤氏

河田 嗣郎氏

吳 文炳氏

逝

去

勝浦 鞆雄氏

坂口 昂氏

大橋 金造氏

山口 浩義氏

右謹みて哀悼の意を表す